

2025年度大学生大会について

全日本学生バドミントン連盟競技部

○3種目中2種目選択について

来年度から東西インカレ、全日本インカレは3種目中2種目選択での大会に変更となります。変更に至った考えとしては、強化の観点から大学のレベルを上げたいというのが最も大きな理由です。レベルが上がったかどうかの判断としては、全日本総合選手権大会で上位に入る大学生が出てくるかどうかという所を指標とし、これから国内、海外で活躍できるような大学生を排出するような大会にしていきたいと考えています。社会人も含め全日本総合選手権大会で3種目出場して3種目上位に入っている選手はいません。上位に入れても2種目が現状限界ではないかと思われます。大学生で活躍するには種目を絞って強化する必要があります。

3種目中2種目選択制にする事で、全日本インカレに出場できる選手数は増えることが予想されます。今まで3種目出ていた選手が2種目に制限されることにより、まずは地区大会でポイントを獲得できるようになります。更にポイントを獲得する事で、東西インカレではシードに入る可能性があり、よりベスト32に入りやすくなります。また、各地区に割り当てられている推薦枠にあてはまる選手も2種目に制限されることで他の選手にまわってきます。地区としても全日本インカレに出場できる選手が増え、モチベーションのあがる選手も増え強化につながるのではないかと考えられます。

○全日本学生ランキング表の配点、シードの決め方について。

今回、[全日本学生ランキングポイント及びランキングポイントを用いたシード決めについて]というアンケートに回答いただきありがとうございました。全日本学生ランキングポイントの配点(97.1%)、東西インカレのシード数(64シード)(100%)、全日本インカレ個人戦シード数(32シード)(97.8%)において、ほとんどの方に妥当という回答をいただきました。現状では、概ね間違っていないのかなと感じました。

配点に関してですが、大学生のランキング表なので全日本インカレ、東西インカレを主要大会と考え、この2大会で活躍した選手がランキングの上位にいけるように考えています。地区大会はボーナスポイントという位置づけとし、点数は少し抑えて配点しています。2年連続で地区大会優勝したポイントで16～32シードに入れるくらいで配点しております。全日本総合大会と日本ランキングサーキット大会も同様にボーナスポイントと位置づけをしています。この全日本学生ランキング表のポイント獲得については、試合で勝った選手にポイントを付与するという考えで配点しておりますので、大会出場のみにはポイントの獲得は考えていません。全日本総合大会ベスト16、日本ランキングサーキット大会ベスト8、

ベスト16ではまだ上位活躍とは言えない部分があると思いますので点数は抑えています。活躍したと判断できる順位からポイントを高く配点しております。

シード決めについてですが、全日本学生ランキング表は色々な意味を含めず、主に大会のシード決めに使用する事を目的とし作成しました。2年間の大会結果をポイント化し、上位からシードに当てはめ、同ポイントは抽選という形で当てはめていきます。トーナメント表のシードの在り方としては、シードが勝ち上がり上位に入っていくようなトーナメント表にするというのがある意味妥当なのかなと思います。勝つ選手がシードに当てはまるように配点、シード決めを行っていきたいと思います。

○2025年度の大会について

・地区大会

地区大会は、各地区主管で開催されており、登録者数、エントリー数、更には普及などの目的等様々な意味が含まれ開催されていることと思います。2025年度の東西インカレからは3種目中2種目選択制になりますが、地区大会においては、全日本学連から必ずしも3種目中2種目に制限をするようには言えないかなとも思います。各地区の事情があると思いますので、3種目中3種目出場での大会開催も可とします。しかし、全日本学生ランキング表には2種目までのポイント獲得しかできない事とし、3種目ポイントを獲得した選手はポイントを獲得する2種目を選択しポイント付与する事とします。しかしながらその場合、地区のデメリットとしては、選択しなかった1種目に関しては、誰にもポイントが付与できない状態になりますのでその点だけご理解ください。

・東西インカレ

3種目中2種目までを選択して出場することが可能です。最終的に東西インカレに出場した種目のみ全日本インカレに出場することができます。

男女ダブルスにおいては、同大学のみペアリングとなりますが、ミックスダブルスに関しては、東日本なら3地区内（北海道、東北、関東）、西日本なら4地区内（関西、中部、中四国、九州）でペアリングする事ができます。

シード数においてですが、組合せ基準には64までシードするとなっていますが、ポイント保有者をシードに全選手（ペア）をあてます。スーパーシードに関しては、32シードまで埋まれば32スーパーシードを採用します。64シードまで埋まれば64スーパーシードを採用します。スーパーシードは3回戦からの試合開始となります。

○組合せ基準について

東西インカレ、全日本インカレ共に団体戦の基準が変わります。前年度の大会結果を基にシードに当てはめていきますが、東西インカレ前は各地区から大学の順位表を提出してもらい、全日本インカレ前は東西インカレ開催の主管学連から東西インカレを基に順位表を提出してもらいます。この順位表を基にシードに当てはめていきます。以前までは初回戦、

準決勝と同対戦を避けていましたが、全部省きました。毎年チームの強さは変わっていきますので必要ないかなと考えました。

個人戦において、全日本学生ランキング表をもとに決められたシード数シードに上位から入っていきます。その際、同地区、同大学が近いという意見が出てきますが、同大学等近くならないように配慮すると、シードの高い選手を抱えている大学が有利になっていきます。個人戦でありますので、あくまで個人という捉え方をし、不平等感をなくしていきたいと考えています。なので、自動抽選後は原則変更なしでいきたいと思っています。